
暇を持て余した神の遊び

あおい猫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

暇を持て余した神の遊び

【Nコード】

N0543I

【作者名】

あおい猫

【あらすじ】

ある一人の少年が目覚めるとそこは――

「ここは……」

気が付くと見覚えもない場所。記憶を探しても思い付く場所はない。

視線を動かしながら、辺りを見渡すも、白、白、白。真っ白だ。後ろを振り返ると、白い空間だけだと思ったその中に一本、バナナの木が一本あるだけだった。

「なんで、バナナ……って、そうか俺は」
だんだんと記憶が蘇ってくる。

彼は、自転車通学中に事故って死んだのだった。

何か黄色いのを自転車で踏みつけて、滑って転びそうになって、何とか転ばないようにしてる内に、そのままダンパーに轢かれた。まだ十四歳。何か悪い事をしただろうか。

いいや、してない。断じてしてない。

夢もある、したい事もある。

「どうして、死ななきゃならないんだ」

足から感覚がなくなっただかのように、力が抜けて白い地面に膝が付く。

「なら、バナナを食べるといい。君がバナナを食べた分、今日の朝からの状態で、何度でも全て一からやり直してあげよう」

意味が分からない。理解不能、理解不能、そう彼の脳が告げている。というか、ダレデスカ。という心境だった。

姿形からは、よく分からないけど人っぽくて、頭にワツカが付いてる偉そうな老人が居たのが見えていた。

「……えーっと、あんた誰だよ」

「神です」

「紙？」

「神」

「髪？」

「それは長いお友達。私は神、ゴット、ネ申」

「最後の違う気が……って、蘇らせてくれるの！？」

「神ですから。いいですよ。バナナさえ食べれば、蘇らせてあげます」

「やったっ！ これで、彼女居ない暦な人生を継続出来る！」

「言ってて哀しくないですか。さあ、食べて来なさい」

足に力が入り、再び立ち上がる気力を得る。彼は、急いでバナナの木まで駆け寄ると、バナナの房を手に入れる。

房から一本のバナナ取り、皮を剥き、頬張りながら一気に口の中へと流し込んだ。

「んんっ……………神様！ 俺食べたよ！ だから、早く生き返らせてくれよ！？」

「一本だけでいいんですか？ 食べた本数分、死んでも生き返らせて上げますよ」

それを聞いて、手に持っている房を見つめる。とりあえず、食べても損はないだろう。と思つて数分かけて全部平らげた。

「では、約束どおり。君を生き返らせて上げます」

「ありがとうございます！」

神様はにっこりと微笑み、蘇らせた。蘇った彼の姿が消えると、バナナの皮が全て白い地面へと落ちて、そこを通り抜けていった。

朝が来て起きる。鳴る目覚まし時計は、なぜか遅刻ギリギリの設定。パジャマから制服への着替えに五分と掛からず、朝ご飯は抜く。ほとんど日常茶飯事の出来事となっていた。

「いつけねー！ 遅刻遅刻ー！ どうしてもっと早く起きなかったんだ。俺！」

自嘲するが、それは意味はなかった。家の扉を、乱暴に開けて外へ出る。

「いつてきまーす！」

大きな声を張り上げて、自宅前に止めてあった自転車へ飛び乗るようにして乗り、ペダルを漕ぐ足に力を入れる。

学校までを最短距離で走り抜けるコースを頭の中で選ぶ。

自転車を一生懸命、漕ぎ続けていた。このまま全て順調に行けば、ギリギリであつたが、何とか間に合うだろう。

交差点へと差し掛かり急カーブ。常人ならば、このスピードで突っ込めば、ここでスリップか、車道へとはみ出してしまうだろうが、彼は慣れたもので上手い事スピードを維持したまま……見事に曲がりきる。

だが、ここで思わぬハプニングがあつた。

バナナだ。

正確には、バナナの皮がなぜか地面に落ちていた。しかも、無駄に大量に。

「なんでだよ……」

冷静な口調と裏腹に、自転車のタイヤで踏んづけてしまい、倒れそうになる。だが、ここで倒れてしまえば遅刻する。

「ぐっ」

それでも、転びそうな所を、今まで培ってきたハンドル捌きで、何とか転ばずに、スピードを維持し続けることが出来た。

そして、気付いた時には自転車歩行者道から、自動車道へとはみ出していた。

「あ、ダンプ……」

これが彼の最後に見た光景だった。

「ここは……」

気が付くと見覚えもない場所。記憶を探しても思い付く場所はない。

視線を動かしながら、辺りを見渡すも、白、白、白。真っ白だ。

後ろを振り返ると、白い空間だけだと思ったその中に一本、バナナの木が一本あるだけだった。

「なんで、バナナ……って、そうか俺は」
だんだんと記憶が蘇ってくる。

彼は、自転車通学中に事故って死んだのだった。

何か黄色いのを自転車で踏みつけて、滑って転びそうになって、何とか転ばないようにしてる内に、そのままダンプカーに轢かれた。まだ十四歳。何か悪い事をしただろうか。

いいや、してない。断じてしてない。

夢もある、したい事もある。

「どうして、死ななきゃならないんだ」

足から感覚がなくなったかのように、力が抜けて白い地面に膝が付く。

「なら、バナナを食べるといい。君がバナナを食べた分、今日の朝からの状態で、”何度”でも、全て”一から”やり直してあげよう」

彼は、後……死んでも10、232回生き返れるのだった。

（後書き）

ここまでお読み下さり、ありがとうございました。

ありがちなループモノですが、どうにも書きたくなったので自分なりに書いてみました。

全ての起点となる出発点が気になるループモノ、これはホラーなのかな？

なぜ、バナナ？など深く考えてたら考えもループしてしまうと思いますので、深く考えません。

重ねてここまでお読み下さり、ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0543i/>

暇を持て余した神の遊び

2010年11月19日16時48分発行